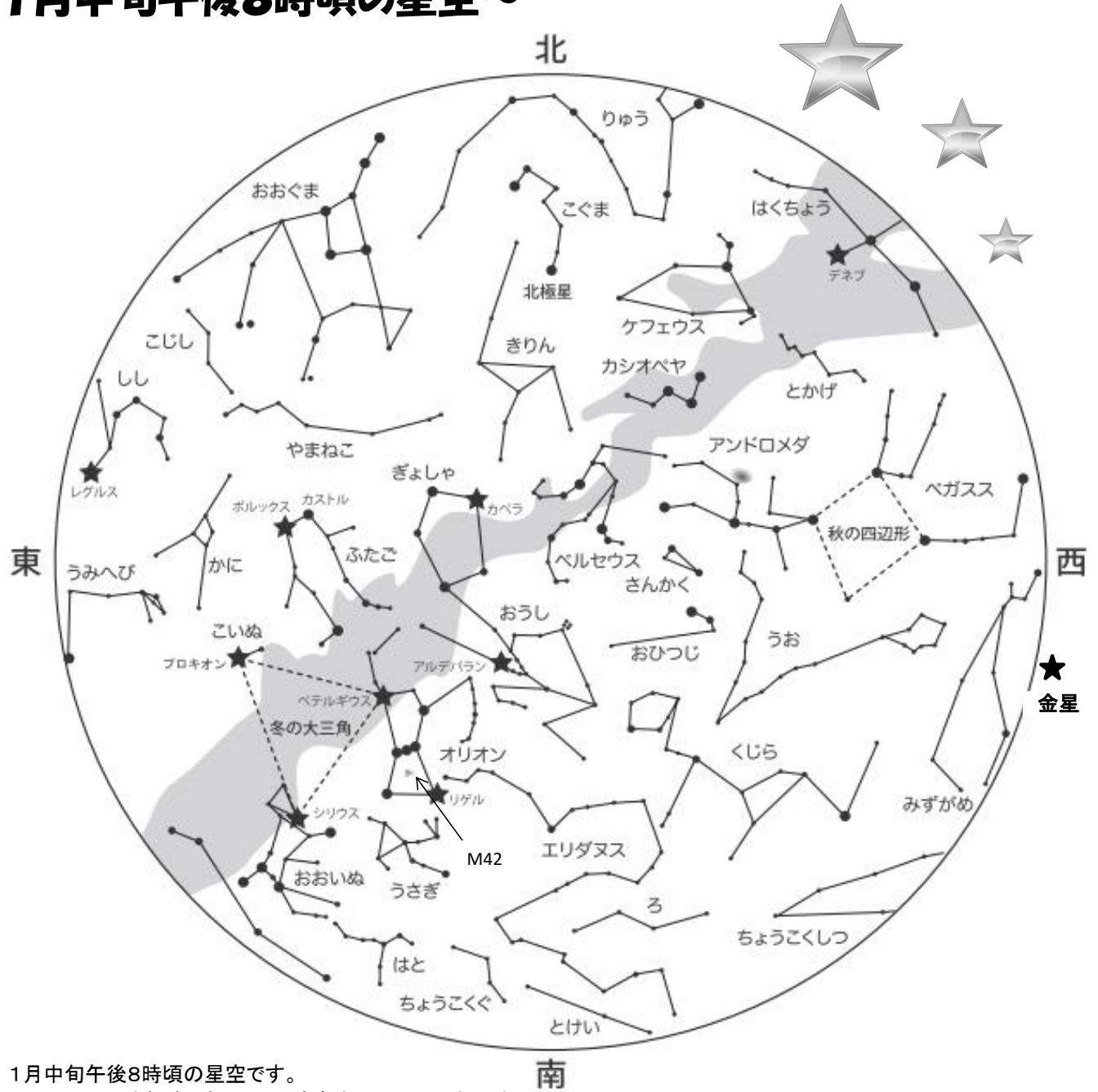


松江市立天文台～1月の天文教室～

令和2年1月15日

1月中旬午後8時頃の星空～



1月中旬午後8時頃の星空です。
この星図で星を探るときは、見る方角を下にしてみましよう。
1月15日(今夜)の月の出は午後10時ころになります。

予想外の暖冬で松江はこの冬はまだ雪化粧が一度もありません。しかし星の動きは気象と関係なく季節をめぐる。太陽が沈んだ後、西の空に輝くのは「金星＝宵の明星」です。5月頃まで、夕方の西の空を飾ってくれます。東の空には冬の星座が昇ってきました。「ぎょしゃ座」「おうし座」「オリオン座」「おおいぬ座」「こいぬ座」「ふたご座」などです。明るい星が多いので、ぜひ星座を見つけてみてください。

今夜の月

※天文教室の時間中は見えません。

今夜は午後10時ごろに、下半分が半月より少しふくらんだ月が東から昇ってきます。月は地球から約38万キロメートルの距離にある、地球の唯一の天然の衛星です。その起源は多くの謎につつまれており、最近では45億年前の原始地球と火星サイズの天体が衝突して月が形成されたとの説が有力になっています。



オリオン座

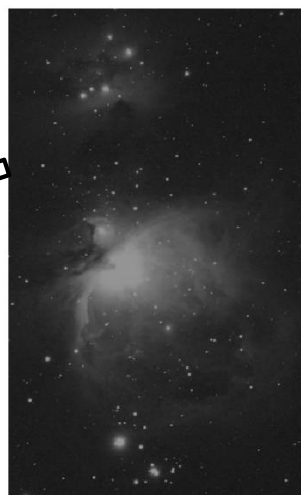
「オリオン座」は星座の中で最も有名なもののひとつです。冬の夜空に張り付いたように輝くのを見たことのある人も多いでしょう。ギリシャ神話でオリオンは背の高い美男子で狩猟の名人だったといえます。伝えられている神話のひとつでは、強さを自慢するオリオンをこらしめようと、女神ヘーラがつかわした「さそり」がオリオンを毒針で殺してしまいます。そのため「さそり座」が姿を現す夏には「オリオン座」は地平線の下へ姿を隠すそうです。星座が立派なのに、ちょっと情けないですね。



オリオンが棍棒をふりあげている右肩に輝くのがベテルギウスという一等星で、太陽の直径の700倍から1千倍もあるという赤色巨星です。

中心の三つ星をはさんで反対側にあるのが、リゲルという一等星で実際明るさは太陽の2万倍という青色巨星の代表です。

距離はベテルギウスが430光年、リゲルが770光年といわれています。



M42オリオン座大星雲は、大きな散光星雲で、双眼鏡でも鳥が羽ばたく姿がわかります。

天体望遠鏡では、中心にトラペジウムといわれる散開星団があり、この場所では今も新しい星が誕生していることが近年の研究でわかってきました。

松江星の会 古都さん撮影

- 空のコンディション(透明度・雲)等で、天体の見え方は違います。
- 使用する天体望遠鏡によっては、視野の上下左右が逆に見えることがあります。
- 天文のデータは主に天文年鑑から引用しています。
- 星図、写真等の引用元は次のとおりです。
「国立天文台」、「ステラナビゲータ11」/株式会社アストローツ

次回の天文教室

開催日 2月12日(水) 20時から21時まで
(受付は19時30分から市役所正面玄関で行います。)
事前の予約は不要です。



★ MAC Matsue Astronomy Club
松江星の会